

編集後記

2007 年 8 月号の編集後記において、10 年間で 20% 自殺者を減らすことを目標として出された自殺対策基本法(2006 年)と自殺総合対策大綱(2007 年)に触れ、予防精神医学の視点の重要性を述べた。その後、この大綱に基づき各地域でさまざまな取り組みが行われてきた。たとえば、岩手県久慈地区での岩手医科大学の取り組みからは、自殺対策には単なる啓発以上に地域でのゲートキーパーを中心としたネットワーク構築による“地域作り”の重要性が指摘されている。しかし、こうした取り組みには地域による温度差が著しく、おそらく久慈地区は例外的なもので、残念ながら 2009 年に至っても 12 年連続で年間の自殺者は 3 万人を超えた。その背景には逆風もある。2007 年の改正医療法による医療計画制度として国は“4 疾患 5 事業”を掲げたが、疾病負担の占める比率が最も高い精神疾患はこの 4 疾患には含まれていなかった。また、数年前には景気の回復に伴い自殺者の減少が見込まれるとの楽観的な指摘もあったが、2008 年のリーマン・ショックの影響は予想に反して本邦での景気にも大打撃を与えた。一方で、精神医療の足元も覚束ない。2010 年に全国自死遺族連絡会から、自殺者の精神科受診率は増加しているものの、抗うつ薬治療における問題点が指摘された。精神医療の質も実は大問題なのかもしれない。

自殺のリスクが高い精神疾患には、気分障害のみならず統合失調症、アルコール依存があることも看過できない。石郷岡純氏が本号の「展望」にクロザピンの有効性と有用性に関して寄稿されているが、この中でクロザピンへの期待の 1 つである統合失調症患者での自殺予防効果が詳細に取り上げられている。赤澤正人氏による「研究と報告」では、自殺既遂者の“心理学的剖検”の結果が示され、自殺対策におけるアルコール問題への関心の重要性が指摘されている。川島大輔氏は、自殺ハイリスク者への介入のスキル測定法に関する研究を報告している。これらは精神医療そのものの底上げにつながり、いずれ自殺の減少につながる可能性が高い。さらに本号の「巻頭言」では竹島正氏が啓発の意味について触れている。冒頭で述べた岩手医科大学の優れた取り組みの本質は“地域作り”にあるが、竹島氏の示唆する啓発の究極もまさにこうした地域の文化度の向上にあるのだろう。

(H.M.)

■ 編集委員

飯森真喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

松本 英夫

松岡 洋夫

三國 雅彦

(ABC 順)

精神医学 (第 52 巻 第 6 号)

2010 年 6 月 15 日号 (毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5 %)

2010 年きぎめ予約購読料 30,600 円・電子ジャーナル閲覧オプション付 39,800 円 (税込, 送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・山崎

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株) ハイブリッジエージェンシー

電話 (03) 3814-0089

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は(株)医学書院が保有します。

・ JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3515-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。